

# 歴史のまち、羽曳野 3 古市古墳群のすばらしさ

## 小古墳と巨大古墳

九州から東北まで、全国に分布する古墳の総数は20万基とも言われていますが、その多くは直径10メートルから20メートルほどの小さな円墳です。墳丘の大きさや形が、生前の役割の重さ、権力の大きさを表していた古墳時代、大王や豪族が葬られたのは前方後円墳でした。鹿児島県から岩手県まで、その数、およそ5,000基あまり、ごく限られた実力者の墓であったことがわかります。



一口に前方後円墳といっても、全長486メートルの仁徳陵古墳(堺市)を頂点に、わずか10数メートルのものまで、規模には大きな格差が認められます。このうち100メートルを超える前方後円墳は全国に約300基で、全体の1割にも満たない、限られた数の大型の前方後円古墳とすることができます。さらに、200メートルを超えるものとなるとわずか37基ほどで、しかも、岡山県にある2基と群馬県の1基を除くと、すべて奈良県と大阪府に限られて分布しています。この時代、政治の中心に立つ大王の基盤は奈良盆地と大阪平野にあったことから、そこに築かれた巨大前方後円墳は、大王やそれに近い人物の墳墓であったことを物語っています。

## 大王陵が集まる場所

奈良県桜井市、天理市にかけての柳本・大和古墳群には4

基、奈良市の佐紀盾列古墳群には8基の巨大古墳が群を成しており、古墳時代のはじめから中ごろにかけて、大王の陵は奈良盆地に営まれていたことを示しています。これに続く、今から1,600年前から1,500年前ころには、大王の陵を大阪平野で営むようになり、羽曳野市、藤井寺市にかけての古市古墳群で7基、堺市の百舌鳥古墳群で4基の巨大古墳が築

かれます。中でも仁徳陵古墳をはじめ、全長425メートルの応神陵古墳(古市)、360メートルの履中陵古墳(百舌鳥)、290メートルのニサンザイ古墳(百舌鳥)、290メートルの仲姫陵古墳(古市)の5基は群を抜いており、墳丘の巨大化はここで頂点に達しています。巨大古墳の中の巨大古墳が集まる、規模の上で古墳群の頂点に位置するのが古市古墳群と百舌鳥古墳群である、とすることができます。

1,500年以上の歳月を経てもなお、雄大なすがたを誇る羽曳野の巨大古墳は、今は見慣れたまちの風景の一部になっています。しかしこれは、けっしてどこにでもある風景というわけではありません。現代の建物さえも圧倒する、いくつもの巨大な墳丘の群れは、いま、世界遺産登録が目指されている百舌鳥・古市古墳群のすばらしさを、いまでも語り続けています。

(世界遺産登録準備室)

## サラダボール

## 『勘違いとか思い込み』

最近、『自由』という言葉をよく使う若者が見受けられます。もちろん若い人だけではありません。自由ほど不自由なのに気がつかない、自己責任のもとでの自由であるはずが、自分さえよければ迷惑をかけなければ何をしてもいいと都合よく思い込んでいます。勘違いか思い込みといった場面が多くなってきた感があります。

私自身といえば、家族や職場の人たち、サークル仲間など周りの人に主観だけで憶測したり自分の考えを無理に押し通したりと、知らずのうちに迷惑をかけていることが時にありますが、言葉は相手を傷つけやすいものだ、聞く耳や目を持つことが大切だと気づ

かされます。責任ある自由というのがなんとなく理解できたとき、そして、いろいろな人たちに助けられていることに気づいたときに、下手でもいいから熱意を持ってことに当たれば理解されると思い、自分の気持ちをどのように伝えればいいのかを考えるようになりました。

すべて人は、生まれながらにして生きる権利も同様にあるべきはずなのに、人間の愚かさかもしれません、言葉だけではなく差別や偏見によりたくさんの人々が、今も苦しみ、苦しめられています。差別を、苦しみを人と共に解かず、寿命を自身の手で縮めてしまう

人が年間3万人以上もいることには悲しみも、そこへ至る気持ちには理解しがたいものがありますが、もっと親から授かった命を大切に生きて欲しいと思います。

人はこの世に生を享けた瞬間から、一生懸命に生きていくしかないと思います。また、一人では生きられません。すべての人が平等で幸せを求め、周りの人たちと違いを認め合い、助け合いながら一人ひとり違った花を咲かせる、そのための努力も忘れずにしていきたいと思います。

(人権推進課)